

令和 2 年度 (2020 年度) 県立石岡第二高等学校自己評価表

目指す学校像	「変化するグローバル社会において、活躍できる生徒を育成する学校」 「伝統の継承・再生とともに社会の変化に柔軟に対応し、生徒・保護者・地域社会からの期待に応える学校」 1 心身ともに健康で、礼儀正しく、明るく積極的な生徒を育成する学校 2 生徒一人一人が、確かな学力を身に付け、個性や適性を知り、高い志をもって進路を実現する学校 3 日本の伝統文化を理解するとともに、国際感覚を併せ持つ生徒を育成する学校 4 普通科・生活デザイン科併置の特徴を生かし、相互に切磋琢磨しながら教育の質を高め、社会に貢献できる生徒を育成する学校 5 学校、家庭、地域貢献と連携・協働し、社会に開かれた創造性豊かな教育を行う学校 6 働き方改革を推進して教職員のワーク・ライフ・バランスを実現し、誇りとやりがいをもって効果的な教育活動を行う学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○茨城県教育委員会「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」強化校の指定を受け、特色ある学校づくりを継続した。今年度は「チャレンジプロジェクト」として事業をより充実させ、「本物」「一流の」体験等を通し、生徒一人一人の適性に応じた職業観の育成を目指す。 ○「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を大切にする授業を展開するために教職員の研修を進め、学校全体で「わかる授業」を目指し成果を上げることができた。さらに生徒の家庭学習習慣の強化を図る授業実践を行う。 ○進路ガイダンスの充実により、生徒の進路希望をほぼ達成することができた。進路意識の高揚を図り、生徒の主体性を高める体験的な活動の推進も必要である。 ○制服や頭髮の指導については、地域からも評価されている。規範意識・モラルのさらなる向上を図っていく必要がある。 ○地域のボランティア活動に参加する生徒が増えてきており意識も高い。部活動加入生徒数が減少傾向にある中、部活動活性化に向けて手だてを講じていきたい。	筑翠ルネサンス事業の位置付けを明確化して実施し、伝統の継承・再生のための体験や国際交流体験活動を定着させる。	① 「本物」「一流の」体験等を通して、生徒一人一人の適性に応じた職業観の育成を目指す。 ② 日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。 ③ 内容を十分検討した上で国際交流事業の継続を図り、生徒の国際理解を深化させる。	B
	基本的な生活習慣の定着と規範意識やモラルの向上を図る。	④ 道徳の授業や道徳プラスの授業等、規範意識やモラルを高める取組を充実させる。 ⑤ 生徒に自律的で責任ある生活習慣を身に付けさせるため、生徒会等と連携し、基本的な生活習慣の定着を促す。 ⑥ 服装指導や生活指導を全職員が共通理解のもと、計画的・継続的に実践する。 ⑦ 生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について機会を捉えて啓発し、その向上を図る。	B
	他者に配慮し、協働して問題解決を図ることがで	⑧ 教育的ニーズに応じた配慮や支援を継続して行い、生徒一人一人の	B

別紙様式 2 (高)

○日本の伝統文化に触れる機会を増やすとともに、国際交流活動の実現を図る。 ○学校ホームページの充実を心がけ、閲覧数を増やすことができた。チラシやポスターなどの作成の他に学校紹介動画の作成など学校の認知度を上げる広報手段を考え志願者を確保する。	きる態度を育成する。	状態や特性を理解し、多様性を尊重する姿勢の範を示す。 ⑨困っていることや配慮してほしいことを、自らの方法で相手に伝えられるよう、生徒のコミュニケーション力を育成する。 ⑩不登校・いじめ等の未然防止と解消に向けて、生徒の動向を時代に即応して把握し、早期の適切な対応に努める。	B
	授業展開の工夫改善を行い、生徒の学力及び体力向上を図る。	⑪「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を通じて、生徒が自ら課題を設定し、その解決に向けて協働していく力を育成する。 ⑫体育・スポーツ活動と体力の向上に取り組む。 ⑬授業研究や校内研修を積極的に進め、授業力の向上に努めることで、生徒の学力及び体力向上を図る。	B
	部活動やボランティア活動などの体験的な活動への積極的な取り組みを行う。	⑭教職員のサポートのもと、部活動活性化と充実を図るための取り組みを進める。 ⑮生徒会の主体的な活動を促し、生徒の自立的、協働的な活動の活性化を推進する。 ⑯ボランティア活動などの体験的な活動への参加を促し、自己有用感の育成を図る。	B
	「なりたい」を「なる」に鍛える職業観・勤労観を育成し、生徒の進路希望を実現する。	⑰入学時からの高い進学目標と意識継続のための効果的かつ系統的な指導を工夫する。 ⑱勤労観・職業観の育成を目指した対策を早期より行うとともに、インターンシップ等への参加を徹底させる。 ⑲刻々変化していく現状に即応する情報の提供と、必要な情報は生徒自らが収集していく意識を醸成させる。	A

別紙様式 2 (高)

		⑩従来の大学・専門学校・企業などの見学やガイダンスを再度検証し、生徒の個に応じた進路指導を一層推進する。			
	生活デザイン科生徒の学びを一層充実させ、高い専門性を身につけ地域に貢献できる生徒を育成する。	⑪課題研究の実践をより深めていき、その学びの成果を学校、保護者、地域、中学生等に発信することで生活デザイン科の専門性の向上と意義を一層高める。 ⑫家庭科技術検定・各種体験活動、コンクールへのチャレンジや課題研究発表会等を通じて、生徒の達成感や自己有用感を高める。	A		
	開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域の声を真摯に受け止め、また広報・生徒募集活動の充実を図る。	⑬学校の教育活動及び生徒の学習活動の成果、それらを盛り込んだ学校PR 動画の作成など、中学生や保護者、さらには広く県民に発信し、生徒募集、広報活動を積極的に展開する。 ⑭本校の教育活動を周知するためのホームページやTwitter の運用をさらに充実させ、常に斬新な広報活動を全職員一丸となって実施する。	B		
	働き方改革として長時間労働の是正だけでなくダイバーシティの推進など、柔軟な働き方ができる職場環境づくりを実践する。	⑮教職員のワーク・ライフ・バランスのため、校務精選の継続及び衛生委員会と連動した研修を実践する。 ⑯部活動の運営方針を遵守し、教員も生徒にも過度の負担とならない部活動の計画・実践を図る。	A		
価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教務	教育課程の適切な運営と授業の充実を図る。	生徒の実態に合わせ各分掌と調整しながらよりよい教育課程を作成し、適切に運営する。	B	A	「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業を展開できるよう、校内研修を早い段階から計画し実施する。 横断的・縦断的視点からカリキュラムマネジメントの推進をはかる。 校内からの情報提供をさらに充実させる。
		新学習指導要領の導入を見据え、「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業を展開できるよう、研修報告の場を設けるなどの校内研修を実施する。	A		
		各学年、教科ごとのシラバスを作成し、有効活用を図る。	B		
	適切な学校行事を作成し、教育活動の円滑な実施に努める	各分掌と連携をとりながら行事の精選を行い、バランスの取れた年間行事計画を作成する。 状況の変化に応じて柔軟に学校行事の運営を行う。	A		
	事務処理の効率化と適正な情報	校務支援システムによる成績管理システムを整備し、全職員が円滑に運用できるようにする。	A		

別紙様式 2 (高)

	管理を図る。	成績一覧票、通知表等の処理を円滑、確実に行う。	A		
		奨学金等に関する広報と事務処理を的確に行う。	A		
	広報活動を充実させる。	本校への理解を深める機会として本校での活動について、インターネットを活用して配信する。秋の学校公開、つくば市での進学フェアへの参加、中学校訪問等を行う。	A		
		各分掌と連携しながらホームページを迅速に更新したり、学校案内パンフレットの内容を充実させたりすることで、保護者や地域、受験生に石岡二高の校内外の取り組みを広く伝える。	A		
進路指導	各学年の進路指導計画に基づいた職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	1学年:進路講演会、職業人との懇談会等を通して早期から高い進路意識を育成する。	B	A	不測の事態等による日程変更や行事の中止に対応できるように対策を講じておく。 オンラインによる見学や受験に対応できる環境を設定する。
		2学年:進路別見学会、インターンシップ、進学相談会参加等を通して個々に合った進路意識を明確化する。	B		
		3学年:1・2学年で獲得した進路に対する知識・経験を基に、個々の進路を実現させる。	A		
	より高い学力を養成し、大学・専門学校の進学率を高める。	土曜課外、平常課外授業等へ積極的に参加させ、より高度な学力・応用力の向上を図る。	A		
		大学・専門学校のオープンキャンパスへの積極的な参加を促すとともに、大学への進学・入試に対して早期の意識づけをする。	B		
		校外模試を積極的に活用し、生徒一人一人の学力をきちんと共有・分析し、高い志を持って進路選択ができるよう指導する。	A		
生徒指導	基本的生活習慣を定着させる。	服装指導や生活指導を計画的・継続的に行之、生徒に自律的で責任ある生活習慣を身につけさせる。	A	B	新しい生活様式に対応した生活指導のあり方を見直す。 今年度同様に学年間で共通理解をもって指導に当たる。
		生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について啓発し、その向上を図る。	B		
	心の教育を充実させる。 (規範意識とモラルの向上)	挨拶を率先して行之、礼儀や言葉遣いなどマナーを身に付けさせる。	A		
		自己を大切にし、他人を尊重する心を養う。	B		
	問題行動の未然防止に努める。	校内・校外の巡回指導を継続的に行う。	A		
		生徒の小さな過ちを見逃さない。	A		
	交通安全教育を推進する。	関係諸機関との連携を図り、交通講話などを実施して事故防止に努める。校外巡視指導や保護者との連携により事故及び防犯に関して確認事項の徹底を図る。	A		
	地域社会の信用を得る。	学校外での行動に繋げるための望ましい習慣を身につけさせる。	B		
生徒指導 いじめ防止	未然防止に努める。	いじめ未然防止のため、生徒の規範意識を高める。	B	A	生徒・保護者からの訴えに対して、引き続き迅速かつ丁寧な対応をする。 デジタルネイティブの生徒達に対応できるように、職員側も研修を積む。
		生徒が教職員に相談しやすい関係を構築する。	A		
		情報モラル教育を推進する。	B		
	早期発見に努める。	生徒の発する小さなサインを見落とさず、いじめの早期発見に努める。	A		
		相談窓口を複数周知し、相談しやすい関係を構築する。	A		
	早期解消に努める。	適切にいじめの事実を確認し、被害者の心のケアをする。	A		

別紙様式2（高）

		加害者に対して、いじめをやめさせる指導を徹底する。	B		
		重大事件があった場合、速やかに調査結果を県教育委員会を通じて知事に報告する。	A		
		インターネットを通じて行われるいじめの対応をする。	A		
	関係機関との連絡体制の強化に努める。	保護者と密接に連絡を取り合い、事実の掌握と早期発見・早期解決に努める。	A		
		警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連絡体制を構築し、相談することで早期解消を図る。	A		
	教職員の研修を深める。	いじめや、インターネット環境等に関する研修や実践的研修を行い、いじめの対応方法の共通理解を図る。	B		
特別活動	生徒主体の自発的な生徒会活動を展開する。	役員を中心に、生徒の自主性を尊重した生徒会行事の企画・準備・運営に取り組む。	A	A	行事が中止になったり制限がかけられる中で、よく頑張った。次年度は、先を見越していくつかの案を用意しておくようにする。年間トータル成績のクラスマッチ等を検討する。
		制限のある行事の中で創意工夫する経験を蓄積することを目指す。	A		
	体験活動に取り組ませる。	ボランティア活動やスキー教室を通して、豊かな人間性を育むことができるよう、体験的な活動を支援する。	未		
	部活動の活性化を図る。	入部制度やリーダーの育成を工夫し、部加入率の向上を目指す。	A		
	キャリアパスポートの活用。	単なる記録にとどまらず、自己変容と自己実現に向けて主体的に取り組むことを目指す。	B		
伝統文化 国際交流	体験活動を推進する。	体験活動の機会を設け、生徒一人一人が達成感や充実感を持てるようにする。日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。	B	B	1年生実施の生け花・茶道体験は生徒の体験を深める得がたい機会となった。海外研修はコロナ禍のため中止。
	国際交流体験を充実させる。	生徒に海外研修への積極的な参加を呼びかけ、国際交流の場を設定する。より安心、安全な方法で実施できるよう努める。			
保健厚生	生徒が学習するために適切な環境を整備するとともに、適正な職場環境の整備に貢献する。	安全点検、環境衛生検査を実施する。衛生委員会による職員への健康に関する研修を推進する。	A	A	新型コロナウイルス感染予防に努める。物品の購入や管理を確実に行う。行事等の計画や準備を早期に進め、よりよいものにしていく。
		清掃監督の先生方や整備委員と連携し、ワックス塗布、大掃除等を行い校内美化に努める。	A		
	心身の健康の維持・増進に努め、生徒の心の居場所を提供し安らげる環境を整備する。	保健委員、福祉委員と連携し、外部講師による性教育講話と献血を実施する。	B		
		生活習慣を見直し、健康的な生活の維持に努める。担任・保護者・SCと連携し生徒をチーム支援していく。カウンセリングの環境を整える。特別支援を必要とする生徒を個別に支援する体制を整える。	A		
図書	生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄与する。	「学習・情報センター」として、学校図書館を活用した学習活動や読書活動を日々の各教科等の指導に取り入れ、生徒の思考力、判断力、表現力等を効果的に身に付けさせる。	B	A	今年度は学校の始まりが2ヶ月遅れたが、図書の貸し出し数は昨年度並みであった。昼休みや放課後の図書館利用者も増えた。今後は調べ学習等に対応できるように各教科の先生方と連携し、生徒の図書館利用を更に増やしていくことが課題である。
		生徒の自学自習の場として利用の促進を図るため、環境整備に努める。	A		
		学習を関連としたコーナーを設け、生徒の利用する意欲を高める。	A		
	生徒の想像力を培い、興味・関心や豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導に取り組む。	オリエンテーションや読書、マナーに関する啓発活動を行い、図書館利用を促す。教科の推薦図書や生徒の希望図書を把握し、適切で有用な選書を行う。	A		
		多読賞や読書感想文コンクール等を通して、読書活動を活性化し、豊かな感性を育む。	B		

別紙様式 2 (高)

渉外	保護者の参加意欲を高めるため、PTA活動への親しみや関心を持てるように広報するとともに家庭との連携を深める。	本部役員と密に連携をとり、スムーズな組織運営に努める。	B	A	会員との連携をより緊密にとる必要がある。コロナウイルス感染症のため、人との接触が制限される中、どう関係づくりをしていくかが問題である。
		会員相互の交流を図る行事等を計画するとともに、広報誌やPTA各支部による広報活動を工夫することで情報を発信していく。また、生徒が安心・安全な生活をするために連携を強化するよう努める。	A		
		地域の巡回指導やマナーアップ推進運動に参加・協力し、地域社会に貢献する。	A		
家政	学科のねらいを明確にして取り組む。	2つのコース制(フードデザインコース・ヒューマンサービスコース)を取り入れることで、コースごとの授業を展開する。各コースに合わせた外部の専門家の指導を仰ぎ、より専門性を高め、職業人としての資質を育成する。	A	A	コース制を強調した新教育課程を踏まえた授業内容に近づけていく。 地域に開かれた生活デザイン科を目指し、広報活動を充実させ取り組みをPRする。 福祉施設や保育園、学校家庭クラブなどボランティア活動の中止があった。次年度は可能な限り活動を活性化させていく。
		課題研究(5講座)を2・3学年合同の授業とすることで、学年を超えた学びの場を設ける。探究活動の成果を発表する場を設け、専門性と自己有用感を深める。また、保護者や地域の中学生にも呼びかけ、生活デザイン科の位置づけをはかる。	A		
	教科と家庭クラブ活動の連携を図り、生徒主体の活発な活動を促す。	家庭クラブ総会を通して、講習会やボランティア活動、校内外の奉仕活動などへの積極的参加を促し、社会参画や勤労への意欲を高めさせるようにする。	B		
		家庭や地域との連携を図りながらホームプロジェクトを実施する。その後、発表活動を取り入れることで、探究学習の充実を図り、優秀者を表彰し、次年度への動機づけと自己有用感を高める。	B		
	各種検定の資格取得を目指す。	家庭科技術検定の3冠王や4冠王の取得やビジネス文書実務検定の合格を目指し、放課後や夏季休業中に課外指導を行い、資格取得のための指導を充実させる。	A		
第1学年	基本的な生活習慣を身につける。	進んで挨拶をする、学校・社会の規則を守り生活をする等、高校生としてふさわしい振る舞いが出来るように各場面を通じて指導にあたる。	B	B	スマホの利用については、未だ不適切な使用がみられるため、継続して指導していく。 貴重品の管理についても引き続き指導していく。
	落ち着いた授業態度を身につける。	授業での学習を重視し、チャイム前着席及び授業の準備の徹底、並びに授業中の離席及び退室の防止を徹底する。	B		
	心豊かな人間性を養う。	各種学校行事に積極的な参加を促し、主体的に活動できるようにする。	A		
第2学年	基本的な生活習慣の確立	一年後の進路を見据え、TPOに合わせた挨拶の励行・適切な言葉遣い敬語使用の徹底を図る。保護者との連携を密にし、規則正しい良好な生活習慣の確立を図り、遅刻・欠席をさせないようにする。	B	B	基本的な生活習慣、特に遅刻指導については引き続き力を入れていきたい。 進路決定において、進学・就職共に全員が希望の進路へ進めるよう指導する。
	基礎学力の向上、進路目標の早期決定	チャイム前着席と授業の準備を徹底し、落ち着いた態度で授業を受けられるようにする。	B		
		学習合宿・考查前学習週間・勉強会等の学年の取り組みをさらに充実させ、進路実現のための学習習慣の確立を図る。	B		
	心豊かな人間性の育成	卒業後を見据え、社会人としての自覚、公共心、他人への配慮の育成を図る。	A		
修学旅行各種行事を通して、集団への帰属意識、集団における規律遵守、協調性や積極性を養う。		B			
第3学年	社会人としての姿勢・心構えの育成と基本的な生活習慣の維持	進路を見据え、TPOに合わせた挨拶の励行・敬語使用の徹底を図る。	B	B	今年度は遅刻数が増えてしまった。いかに遅刻数を減らしていくかは学校全体としての課題である。 規範意識を高めるためにも、全教員が一丸となって「ダ
		保護者との連携を密にし、規則正しい良好な生活習慣の確立を図り、遅刻・欠席をさせないようにする。	B		
	基礎学力の向上・定着、進路の決定	チャイム前着席と授業の準備を徹底し、落ち着いた態度で授業を受けられるようにする。	B		
		考查前学習週間・勉強会等の学年の取り組みをさらに充実させ、社会人としての一般常識・基礎学力の向上・定着を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

	人間性豊かな社会人の育成	進路指導部と連携し、学年が協力・連絡を密にして、生徒の希望進路を実現する。	A		メなものダメ」という指導を徹底していく必要がある。
		卒業後を見据え、社会人としての自覚、公共心、マナー、他人への配慮の育成を図る。	A		
		各種行事を通して、集団への帰属意識、集団における規律遵守、協調性や積極性を養う。	A		
国語	基礎学力定着の徹底を図る。	漢字・語句の基礎的な力を培い、国語力の向上を図る。	A	B	教科書だけでなく様々な関連資料や情報機器を活用して関連する情報に触れさせ、自発的な学習を促すような授業を研究し実施する。
		辞典や便覧等を利用し、さまざまな文章の読解力を高める。	B		
		單元ごとにさまざまな本を紹介し、読書に対する意欲を喚起する。	B		
	古典の世界に親しませ、基本的知識の習得を図る。	画像や音声等を含む教材を利用し、古典の世界に親しませる。	B		
		基本的知識を定着させるとともに、文章を正しく速く読めるよう多くの文章に触れさせる。	B		
	進路を意識して、必要な教材を授業に組み入れる。	問題集等を活用して国語に関する一般常識の理解を深める。 教員間で情報を共有して一人一人の生徒の指導に当たり、進路希望の実現を図る。	A B		
地歴・公民	基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を促進させる。	生徒の実態に応じた授業を展開する。小テストを実施したり、ノートを定期的に提出させたりしながら学習内容の理解度を確認する。	B	B	ICTを積極的に取り入れた授業を研究し実施する。
		シチズンシップ教育を充実させ、今後主権者となるための意識を醸成する。	B		
		郷土茨城の歴史を日本史や世界史との関連の中で幅広く理解させる「郷育」を推進する。	A		
数学	生徒の学習意欲を喚起し、進路に応じた指導をする。	重要な公式を確実に身につけ適用できるようにすることで、数学の有用性を認識させて学習意欲の喚起を促し、具体的な目標を定めて学習する姿勢を身につけさせる。	B	A	授業等に ICT を取り入れ、有効活用できるよう研究する。
		課外授業や個別指導等を通して、上級学校へ進学を希望する生徒に応じた指導を行う。	A		
	基礎学力の定着を図る。	1年生普通科では習熟度に応じて2クラスを3分割にし、学力に応じた授業を展開する。それ以外のクラスでも、問題集やプリント等を積極的に活用し、家庭学習を推進して理解度を高める。	A		
情報	知識・技能および情報の分析・評価・判断力を育成する。	情報機器を操作する時間を定期的に設け、情報社会の変化に対応できる能力を高める。	B	B	GIGAスクール構想を基盤に BYOD をスムーズに発進させ教科を超えて、より主体的に ICT に取り組めるよう実践する。
		アプリケーションソフトを十分に活用し、情報を効果的に処理できるスキルを身に付けさせる。	B		
	情報モラルに配慮する態度を身に付ける。	個人情報や著作権についての学習を通して、情報の扱い方を学ばせる。 インターネットに関わる学習を通して、情報社会において守るべき情報モラルについて考えさせる。	A A		
理科	基礎学力の定着を図る。	教科書に記載されている基礎的内容をしっかりと理解・定着させる。そのための計算力や記述力の能力向上もはかる。プリントや問題集などを通して、理解度や達成度を確認する。	A	A	より分かりやすい授業を展開すべく、ICT の有効活用について考え、実践する。
	実験を通して観察・探究する能力を身に付ける。	実験を通して理科の面白さを体験させ、興味・関心が湧くように指導する。実験レポートの作成により自然科学的に考察する能力の向上を図る。実験器具の使い方や実験終了後の整理整頓まで主体的に行動できるように指導する。	B		
	理科的現象への興味と関心を高める。	自然科学としての理科を認識させ、歴史的意義や現代における役割および環境問題などへ思考が及ぶように指導する。現代社会を生きる上で必要な学問であることを理解させる。	A		
保健体育	授業に臨むための基本的学習習慣の定着を図る。	着替え、用具等の準備を含め、迅速に行動し、時間を厳守するように指導する。	B	A	授業等に ICT を取り入れ、動きを分析的に理解し、より精緻な動きを習得させていきたい。
		授業を通し礼儀やルールを守る態度の向上を図る(指定された服装、開始・終了の挨拶、言葉遣い等)。	B		
	十分な運動量を確保する。	生徒が十分な運動量を確保できる授業を展開する。	A		

別紙様式 2 (高)

		卒業後も主体的にスポーツに取り組める能力の育成を図る。	主体的な活動場面を多くし、考える力や、コミュニケーション能力の育成を図る。	A				
			それぞれの種目の楽しさを味わえる授業を展開する。	A				
英語	基礎学力の向上を図る。		小テストを実施し、ノートやワークブックを定期的に提出させ、学習内容の理解度を確認する。	A	B	1 学年の習熟度別少人数授業を継続し、きめ細やかな指導を行うことによって学力向上を目指す。 授業の中でICTを効果的に活用する。 課外や授業の中に英検対策の内容を取り入れて、英検受験者を増やす。		
			第1学年は習熟度に応じて1クラスを2分割し、少人数によるきめ細かな指導を行う。	A				
			学習内容の定着のため、放課後の補習授業や課外授業を実施する。	B				
			クラスルーム・イングリッシュや音声教材をできるだけ多く使い、リスニング力の向上を目指す。	A				
	英語の授業の改善に努める。		授業内容・方法について教科内で研究協議を行う。	B				
	英検取得を促す。		英検対策課外を行い、過去問題を活用して、検定試験の対策を行う。	B				
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。		TTや分割履修などを活用し、生徒の実態にあった授業を工夫し展開する。	A	A	基礎的・基本的な知識と技術を理解させるよう、次年度はさらに ICT 機器を活かした授業展開と指導の工夫の必要がある。 普通科の講習会や実習などは制限され今年度実施できないものが多かったが、可能な限り次年度は実施する。		
			実験・実習などを通して各種知識・技術の基礎基本の定着を図る。また、課外や補講を実施することで実践的で専門性の高い能力を身に付けることができるように工夫する。	A				
	生徒の興味関心を考慮した授業の工夫をする。		生活デザイン科においては、コース制での授業や課題研究での合同授業など多彩な講座を展開することによって、教科内容の充実を図る。地域の施設との連携や外部の専門家による指導、コンクールへのチャレンジを通して、生徒の意欲・関心が高まるように指導の工夫をする。	A				
			普通科においては、体験的な学習ができるように学年と協力し、専門性の高い講習会を実施する。変化に即応できる生活者としての知恵を身に付け活用できるように指導を工夫する。	A				
	作品づくりと自己評価をすることで、学習への取り組みの意欲を高める。		自己評価と他者評価を行うことで、作品づくりの意欲を高め、完成させることで達成感を感じられるような指導の充実を図る。	B				
芸術	音楽	音楽を愛する心情を育て、様々な表現方法を身につける。	生涯にわたって音楽を愛する心を育て、自ら積極的に音楽活動を楽しむ態度を育てる。	A	A	コロナ禍で制限されたことが多かったので次年度は今年度できなかった歌唱の活動やグループ活動を通して音楽に対する愛好心を育てていきたい。		
			多様な形式の歌唱・器楽において、グループでの活動などを通し音楽を作り上げる喜びを味わう。	A				
			日本の音楽を通して日本の伝統文化を尊重する態度を養う。	A				
		音楽に対する感性を磨く。	様々な分野の音楽を主体的に鑑賞し、感じたことを言語で表現し共有する。	B				
	美術	美術を愛好する心情を育て、創造的な表現と鑑賞の基礎的な能力を身につける。		問題発見・解決を念頭に置いて関心・意欲を高めながら、一人一人が輝く個性あふれる主体的な作品制作を行い、完成させる成就感を味わう。	A	A	段階的な指導を意識し、生徒が無理なく課題に取り組めるようにする。 よりよい環境で鑑賞活動ができるよう、機器を整備する	
				画材の基本的な使い方を習得させ、期限内の課題提出を徹底する。	A			
				原始時代から現代までの絵画・彫刻・デザイン・映像・漫画などを鑑賞し、学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた「深い学び」を取り入れた美術表現の理解と関心を高める。	B			
事務部	予算管理の適正化		予算配分 ・各校務分掌とのヒアリングを実施し不要予算の削減と必要予算の配分を行い効果的な予算執行に則した配分への転換を図る。 ・必要物資等の把握により集約調達を行い、効率的な契約方法により費用の節減を行う。	B		今年度はコロナ感染症対策、エレベーター設置やトイレ大規模改修、GIGA スクール構想に基づく ICT 関連機		

別紙様式 2 (高)

		修理・修繕対策 ・設備等について経年劣化による故障や修理箇所が増加しているため、緊急性・必要性を考慮するとともに修理・修繕内容及び範囲などを検討し、必要最低限の対応を図る。 光熱水対策 ・水道料金については毎日メーターを計測し、漏水の早期発見に努める。 ・電気料金については、デマンド監視装置及び教室の空調機器の集中制御機能の活用、LED 照明の順次導入により、節電を行う。	A	A	器の購入など従来にない予算執行を余儀なくされたが、次年度は基本的な予算の適正化・施設設備の維持はもとより前年度整備された ICT 機器をより効果的に運用すること及びまだ収束していないコロナ感染症予防に関する資材購入にかかる予算執行が課題である。
	施設の安全と環境美化への取り組み	・日常的な点検を実施し、危険箇所の発見及び簡易な修理・修繕が可能な場合は即時に施工することにより危険箇所の削減を図り、生徒・職員の安全な環境を保持する。 ・植栽等の管理計画を立て、適切な時期に処置を行うことで景観の美化を維持する。	A		
	施設設備の整備計画の見直し	・現状の課題と長期的視点を考慮し、効果的な施設整備が行うことができるよう計画の見直しを行う。 ・施設のバリアフリー化を目指し、現状の施設で改修できるところは改修する。	A		

※ 評価規準: 評価段階 A:十分できた B:概ねできた C:やや不十分 D:不十分